

平成28年度 第1回 九州工業大学 経営協議会 議事次第

日 時 平成28年5月24日(火) 15:00~16:30
場 所 百周年中村記念館 特別会議室

開 会

- 議長挨拶
- 欠席者等の案内 (資料1)
- 大学の概要について
- 平成27年度第7回議事要旨の確認

〔審議事項〕

- (1) 平成27事業年度に係る業務の実績及び第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書(案)について (資料2)
- (2) 第2期中期目標の達成状況報告書等(案)について (資料3-1)
(資料3-2)
- (3) 平成27年度決算について (資料4)
- (4) 経営協議会から選出する学長選考会議委員について (資料5)

〔報告事項〕

- (1) 平成28年度学内予算について (資料6)

〔その他〕

- (1) 平成28年度経営協議会の開催日程について (資料7)

議長謝辞

閉 会

国立大学法人九州工業大学経営協議会議事要旨（平成28年度第1回）

1. 日 時 平成28年5月24日（火）15：00～16：44
2. 場 所 戸畑キャンパス 百周年中村記念館 特別会議室
3. 出席者 井上委員，小笠原委員，北橋委員，工藤委員，久保田委員，高原委員，
谷委員，辻委員，松岡委員
（五十音順）
学長，理事（教育・学生担当），理事（研究・産学連携担当），
理事（財務・評価・情報担当），理事（総務・労務担当），
工学研究院長，情報工学研究院長，生命体工学研究科長
4. 列席者 林田監事，副学長（国際担当），副学長（入試・広報担当），
学長特別補佐（男女共同参画担当担当），教養教育院長
5. 議長挨拶
議長から，開会にあたり挨拶があった。引き続き，大学の概要について説明があった。
6. 会議成立
構成員18名のところ，17名の出席により定足数を満たしていることが確認された。
7. 議事録の確認
平成27年度第7回経営協議会（平成28年3月17日）の議事要旨の確認について説明があり，了承された。
8. 審議事項
（1）平成27事業年度に係る業務の実績及び第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）について （資料2）
理事（財務・評価・情報担当）から，平成27事業年度に係る業務の実績及び第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（案）について説明があり，次のような意見等があった。
（○：学外委員，△：学内委員）
 - ： 多くの資料を元に説明されているが，この協議会の性質上，細部について御説明いただくこともさることながら，むしろ，大学運営の大きな方向や直面している問題点などを御説明いただくというのが，より効果的ではないかと思う。
 - ： 中期目標を実現するにあたって，平成26年度の運営組織の改組しようだが，どのような効果があったのか。
 - △： 第2期中期目標期間で強化したのは，学長の支援組織としていくつかの戦略室を設置した。例えば，戦略企画室では学長・執行部の企画・立案を支援し，成果として大きな補助金の獲得につながった。
教育・国際関係も同様に「教育企画室」や「国際戦略室」を設け，組

織改革や海外派遣の企画・運営ができるようになった。

○： その「室」には、事務職員だけなのか、それとも教員と事務職員が配置されているのか。

△： 「室」のそれぞれの役割に合わせて配置している。

○： 北九州市が評価している連携大学院については、産業界からも高い評価があると感じている。

△： 若松地区の3大学が協力し運営している連携大学院は、自動車関係から始まっており、FAISもあり人材育成に実績を上げている。

再度、文言等の見直しを行い、若干の修正については学長に一任することです了承された。

(2) 第2期中期目標の達成状況報告書等(案)について

(資料3-1, 3-2)

理事(財務・評価・情報担当)から、資料3-1, 3-2に基づき、第2期中期目標の達成状況について説明があり、審議の結果、原案どおり了承され、役員会に付議することとした。

(3) 平成27年度決算について

(資料4)

理事(財務・評価・情報担当)から、決算に伴う損益計算書及び貸借対照表等の概要について説明があり、審議の結果、原案どおり了承され、役員会に付議することとした。

(4) 経営協議会から選出する学長選考会議委員について

(資料5)

総務課長から、学長選考会議規程及び構成員の申し合わせに基づき、経営協議会委員から次の委員を選出することについて説明があり、審議の結果、了承された。

①申し合わせ第1条第1号

- ・谷 潤一 委員
- ・松岡 恭子 委員

②申し合わせ第1条第2号

- ・小笠原 浩 委員
- ・高原 正雄 委員

9. 報告事項

(1) 平成28年度学内予算について

(資料6)

理事(財務・評価・情報担当)から、平成28年度学内予算について報告があり、次のとおり意見があった。

(○：学外委員, △：学内委員)

○： 北九州市は、新しい可能性が広がるような国家戦略特区に選出され、特にロボット、介護・福祉、医療分野において、日本で非常に重要な拠点に

決まった。

水素タウンなどの環境設備の面で、国も含めて急速に新しいことにチャレンジしようとする流れが起こってきているが、歴史を持っている九工大はフレキシブルに産業界、時には国と一体となって対応しているので、心配がないと感じている。

- ： 予算において国からの運営費交付金の割合は50%を超えているのか。
- △： 損益計算書は、大学全体を表しており、運営費交付金は50%を切っている状況である。学内予算の内訳においては、予算の資源となりうるものだけを計上しており、科研費は、ここでは含まれていない。
- ： 運営費交付金の予算は、コンセプトがむずかしいというのが実態と思う。文部科学省は、成果を出すことを期待しているので、大学は知恵を絞ってその交付金の哲学に沿った具体案を、積極的に提案して要求することが大事だと思う。
- ： 運営費交付金が毎年1%減額される中、一部の大学では、定年した教員の後任補充ができないという話も聞いている。厳しい財政状況と思うが、後任補充ができるのか。
- △： 後任補充については、基本的に運営費交付金が1%減額されることや来年度の退職者を勘案しながら、今年度の採用計画を立てているところである。

できれば多くの教員を採用したいが、法人化以降、教員数は、約1割減っている。これ以上教員数を減ることがないように、外部資金獲得などで定期的に活動ができるように知恵を絞っていきたい。

- ： 年俸制適用教員を広げていく方針と人件費構成はどうなっているのか。
- △： 年俸制適用教員の最初の導入の目的は、退職金に縛られない教員を増やし、産業界や大学との流動性を増加させるためと考えている。

通常、教員の退職金は国で積み立てられているが、年俸制適用教員の給与は、退職金を含んだような給与体系となっている。その退職金分は、国ではなく、大学で負担するため、リスク面を考えて取組む必要がある。

年俸制適用教員の良いところは、人事院勧告等に縛られず、本学のポリシーで給与を決定することができる。

流動性を増すという意味では良い取組だが、現在の年俸制適用教員は、評価が高い教員が多いので、大学としては人件費負担が増えている。

- ： クロスアポイントメント制は採用しているのか。
- △： 本学でも導入し、数名在籍している。まさに流動性を高めるということで導入し、企業と大学で教員の給与を負担し合うことが、WinWinの関係となるように文化を醸成しなければと考える。
- ： 地域と今後どのように連携を図るかについては大切な事なので、全面的に協力をしていきたい。

運営費の1%減額については、減らされた分をどのように増やしていくかが重要になると感じた。

- ： 今回は財務に関する議題が多かったが、次回以降、人材育成、教育・研究について様々な観点から議論ができたと思う。
- ： 経営協議会のメンバーも代わり、新しい提言を踏まえた非常に良い経営協議会になる印象を持った。
- △： 皆様からの様々なご意見をありがとうございました。今月、大学広報の観点から、本学で初めて記者懇談会を行う予定です。今まで定例の記者懇談会を行っていなかったが、学内からの発信力を強めていく上で、定例の記者懇談会を実施することとした。
- ： 大学が目指している教育と研究の方向性は非常にいいものなので、ぜひ頑張ってください。同窓会である明専会も全面的にフォローしていきたい。

なお、理事（財務・評価・情報担当）から、平成29年度の概算要求については、7月頃に提案したいので、メール審議をさせていただく旨説明があった。

10. その他

(1) 平成28年度経営協議会の開催日程について

(資料8)

学長から、平成28年度の経営協議会の開催日程について説明があり、場合によっては場所や開催時間を変更する旨説明があった。